

令和3年1月22日
国立公文書館

令和2年度アーキビスト認証の結果について

1 アーキビスト認証とは

独立行政法人国立公文書館においては、公文書等の管理に関する専門職員に係る強化方策として、国民共有の知的資源である公文書等の適正な管理を支え、かつ永続的な保存と利用を確かなものとする専門職を確立するとともに、その信頼性及び専門性を確保することを目的とし、平成30年12月に「アーキビストの職務基準書」を策定し、これに基づき、アーキビストとして公的に認証する仕組みを開始。今回の令和2年度の認証が最初の認証となる。

2 令和2年度認証の経緯

規則・手引き等の公表 令和2年6月12日（金）

6～8月に説明会を全国19カ所で開催

申請受付 令和2年9月1日（火）～9月30日（水）

審査期間 令和2年10～12月

申請書について、アーキビスト認証委員会で認証の3要件（知識・技能、調査研究能力、実務経験）を審査

結果通知 令和2年12月15日（火）

認証日 令和3年1月1日（金）

名簿公表 令和3年1月8日（金） ※国立公文書館HPに掲載

3 認証の結果（資料3-2中の資料3参照）

○申請者248名中、190名が合格・認証された。（76.6%）。

※認証の有効期間は、令和3年1月1日から令和7年末（5年間）。

○認証の内訳

- ・ 認証の多くは国・地方自治体の公文書館に勤務する者。
- ・ 国・独法では、国立公文書館（29名）、外務省外交史料館（5名）、国立大学文書館（9名）の公文書管理法上の国立公文書館等の職員（43名）を中心とし、その他に防衛省防衛研究所などの歴史資料等保有施設の職員等も含まれる。
- ・ 地方自治体では、公文書館の職員（67名）を中心とし、文書主管課の職員や博物館・資料館で文書資料を扱う職員など幅広い者が含まれる。
- ・ 世代別では、平均年齢48.8歳であり、公文書館で10年以上の実務経験を有し、中核的なポジションを担う職員が多かった。また、OB職員も一定数認証された。